

3.11後を憎しみから離れて生きるために 他者の尊厳を考える

～映像とナラティブ（物語る声）を軸に～

（全5回）

私たちは、3.11を通して、人間の尊厳が根本から揺らぐのを経験しました。それは、首都圏に住む私たちにとって、自分が抱える「痛み」とは違う「痛み」が世界に存在することを改めて経験する機会になりえたはずでした。しかし、いま、とりわけ首都圏では多くの関心は「復興」という名の景気対策や、国境をめぐる紛争に向けられてはいないでしょうか。そして、他者を排除しようとする極端な差別的な言辞が、ストリートにこだまする時代をいま私たちは迎えてしまいました。



「フクシマ」のなかでも周縁におかれ続けた外国人市民たちの声。いまもフクシマの中にとどまり様々な葛藤のなかで生きる人びとの声。理不尽な排除の眼差しと「自己責任」や「消えろ」という言葉に渾身の力を込めて抗う、障害を持つ身体から発せられる声。「正義」の名のもとで、国家によって一方的に策定された境界によって、生きる権利さえ脅かされ続ける人びとの声。さまざまな映像と、具体的な苦悩の中を生きる他者の「声」を手がかりに、3.11後を、そして大きな暴力の予感の中を、生きる私たちが、いま連帯すべき対象は誰なのか、耳をそばたてるべき「声」はどのようなものなのかを考えます。

- と き：2013年4月23日～5月21日 毎週火曜日 午後7時～9時 全5回
- 場 所：川崎市ふれあい館 会議室 ●受講料：無料
- 主 催：川崎市教育委員会 川崎市ふれあい館